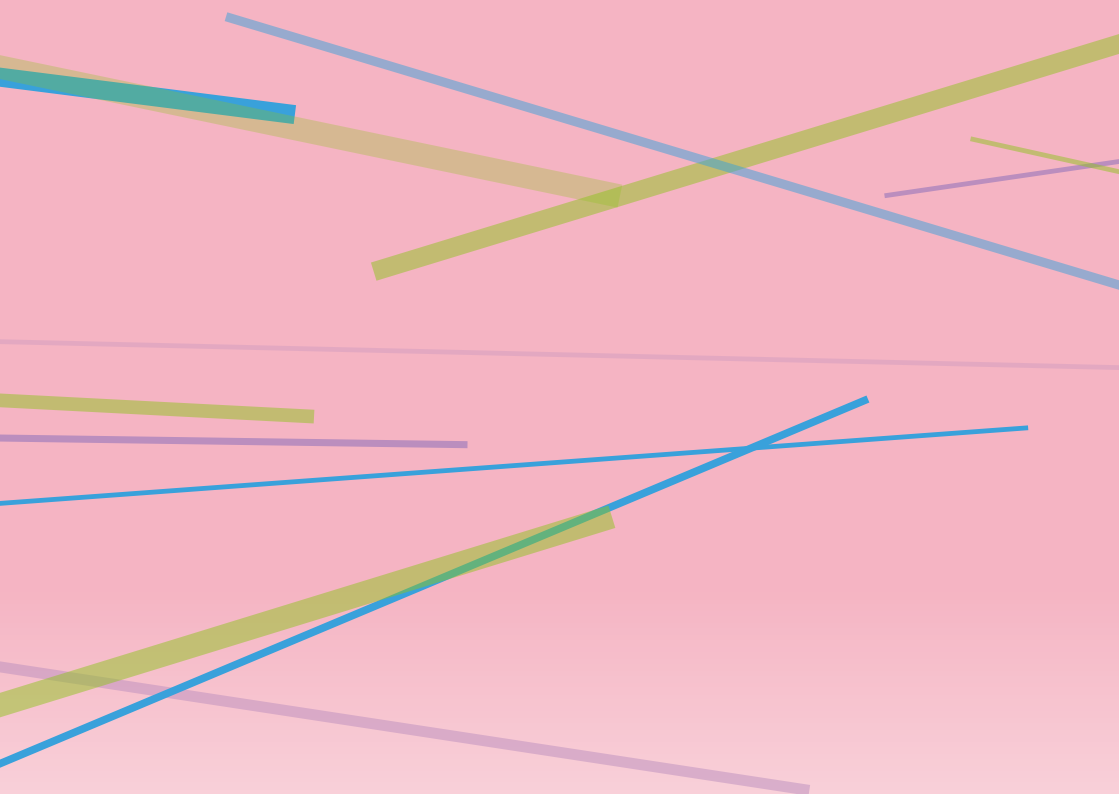


2018年度～2019年度

「そのだ」の地域連携 vol.6

園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部

2020（令和2）年



園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部

「そのだ」の地域連携 Vol.6 目次

経験値教育	4
あいさつ	5
園田学園女子大学 まちの保健室	6
そのだスポーツ栄養ナビステーション	7
川西阪急との連携事業	8
小学校外国語（英語）実習	9
ママカフェ	10
契沖顕彰短歌大会 ～「第17回 契沖顕彰短歌大会」の開催～	11
Super Sweets in Amagasaki	12
そのだ子育てステーション	13
近松研究所 ～所蔵資料の展示、情報発信ほか～	14
図書館の地域開放	15
阪神南ふれあいスポーツフェスタ	16
生涯学習 ～生涯学習開設40周年事業～	17
まちの相談室	18
オセアニア地域交流プログラム	19
カンタベリー大学教育比較研修	20
日本語スピーチコンテスト	21
キッズフェスティバル	22
十文字学園女子大学と大学間連携に関する協定を締結	23
ひょうご神戸プラットフォーム 地（知）の拠点大学による地域創生推進事業（大学COC+事業）	24
尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業	25

みんなのサマーセミナー	26
子どもの育ち支援会議	27
「尼いも」と園田学園女子大学	28
尼崎市の企業にお越しいただき、学内企業説明会を実施	29
大学生による地域連携推進支援 ～阪神つながり交流祭～	30
但馬地域連携事業 ～ソフトボールクリニック～	31
三重県熊野市との連携	32
尼崎市立杭瀬小学校との連携事業	33
園田北まちづくり協議会との連携	34
小学校でのプログラミング支援	35
庄下川の親水性の向上	36
まちづくり解剖学	37
地域志向科目「つながりプロジェクト」	38
学生地域連携推進委員会（通称：つな Girl）	40
リーダーシップを育む地域連携活動（テニス部）	41
インターアクトクラブの活動 ～献血推進活動～	42
そのだスポーツフェスティバル	43
学生会執行委員会「産業技術短期大学との交流」	44
けやき祭	45
編集後記	46



経験値教育プログラム

地域志向科目

大学の社会貢献

地域社会における大学の役割、学生自身が大学で学ぶことの意義と責任、自己が担うべき役割など、大学が立地する尼崎市の特性と課題を学び、それらの課題の解決策について学ぶ科目です。この講義では、尼崎市役所をはじめ市内のNPO、自治会などからのゲストスピーカーの話を聴くとともに、全員が地域のボランティア活動に参加します。

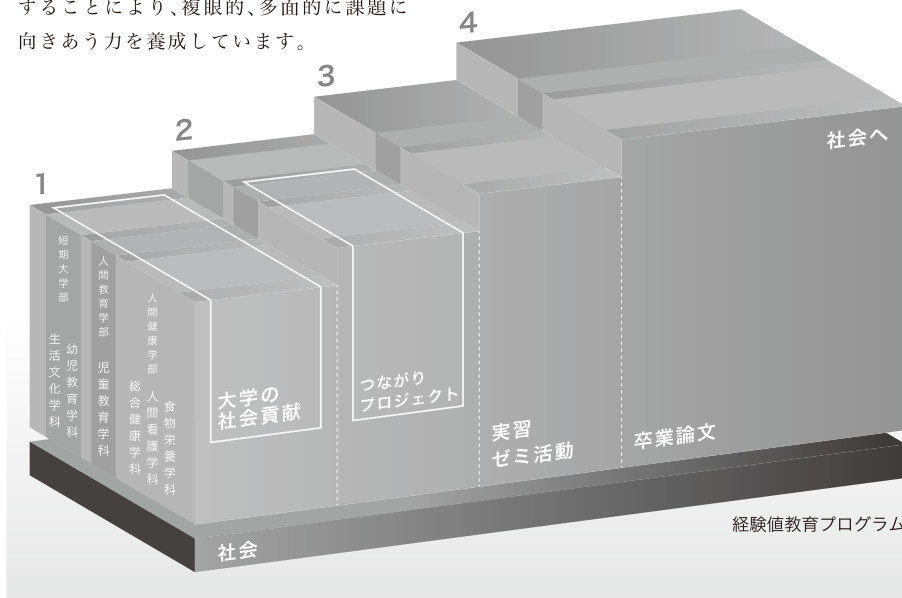
地域志向科目

つながりプロジェクト

地域課題に即したテーマについて、課題解決に向けての企画、提言を行うPBL (Project-Based Learning)型の演習科目で、大学2年生全員が履修します。尼崎市を中心とした近隣市、但馬地域の課題について、学部学科の学問領域を横断することにより、複眼的、多面的に課題に向きあう力を養成しています。



教室で理論を学び、
地域で実践することにより、
5つの力が身につきます。



地域と大学が、活動を通して、共に学び育つ ～「知識」から「知恵」の返還エネルギー 学生の経験値～

松葉 真 (人間健康学部食物栄養学科准教授・)
社会連携推進センター所長

本学、園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部は、大学の理念として、教育・研究・社会貢献を掲げ、特に地域とともに歩みつつ発展する大学として、人と人の「つながり」を大切に、他の人たちへの思いやりをもって日々を過ごしています。この冊子は、2018年度2019年度の2年間の活動をまとめたものです。2020年には新型コロナウイルス(Covid-19)の影響により実習、社会活動は制限され、本学の経験値教育にも少なからず影響が出ましたが、リモート、オンラインなど工夫を重ねての地域活動を進めています。



大学は、人間健康学部では養護教諭、保健体育教諭の養成を行っている、総合健康学科、看護師として知識、心をはぐくむ保健師、助産師も養成する人間看護学科、学校や病院の管理栄養士の養成を食物栄養学科が担い。小学校、幼稚園教諭、保育士などの養成をする児童教育学科を擁しています。

短期大学部の生活文化学科ではビジネスを中心にカフェやファッションを学ぶことで事務職やカフェ経営者への道に、幼児教育学科は幼稚園の先生、あるいは保育所や児童養護施設などで働く、保育士への道に進める2学科があります。これらの学科はすべて社会に出た時には専門知識が求められ解答のない社会事象に直面します。

そして大学には、新たに経営学部が加わります。女性の社会進出が叫ばれて久しいですが、日本の女性の経営者率はまだまだこれからです。

本学は生活に密着したあらゆる職場でそれぞれの立場で思いやりを持った、人と人のつながりを大切にする、人財の育成を期待され、応えていると自負しています。この冊子から各学科の地域連携、地域貢献を読み取っていただき、ご指導ご鞭撻を賜り、地域社会とともに成長させていただければ幸いです。



園田学園女子大学 まちの保健室

連携先 人間健康学部人間看護学科 実習支援室

担当 人間看護学科 まちの保健室推進委員会

園田学園女子大学 まちの保健室は、人間看護学科の開設当初から住民の方の来室いただくことによって運営しています。

■身体測定・血圧測定・健康相談や健康に関するミニ講話、年1回の経過観察としているため予約制の動脈硬化度測定・骨密度測定・健康増進プログラムを実施しています。

■令和1年には妊婦さん・褥婦さん・先輩ママさんと其々のパートナーがお出でになって「はぐはぐ」を開催しました。赤ちゃんのお風呂、お産についてのワークを行いました。

■まちの保健室は、4月～7月、9月～11月に「まちの保健室実習」として2年生の看護学生が8名程度のグループで実習を行っています。そこでは、来室者の方々の健康観や保健行動に関すること、ヘルスプロモーションについて学んでいます。来室者の皆様は、看護学生たちの応援団的存在であり、率直なご意見や励ましていただいたり、温かく見守ってくださっています。



「園田学園女子大学 まちの保健室」は、毎週水曜の午後に定期的、けやき祭（本学学園祭）に開催していましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症で開催できませんでした。引き続き、大学の感染症管理に従って、工夫しながら運営していきます。

来室いただくには、事前に「ホームページ」・お近くの方なら「大学入り口」・「連絡先」にて今後の予定をご確認いただきまして予約していただきますようお願いいたします。ご迷惑のかからない様にお知らせします。開催をお待ちいただきまして感謝しております。皆様には、是非ご来室いただけるようお待ちしております。



そのだスポーツ栄養ナビステーション

担 当 人間健康学部 食物栄養学科

選手のカラダを食事でプロデュースすることを目的に、食物栄養学科の学生が主体となって、運動クラブの選手を支えます。学生が選手をサポートすることでスポーツ栄養のみならず、指導力の経験値の向上も目指しています。

○活動内容

スポーツ栄養ナビシステムを用いて、自分の食べ方を検証し、アスリートとしての適切な食事量と食べ方をアドバイスする。

梅雨・夏場に向けての脱水症対策を実施。

○測定機器

栄養アセスメントに必要な測定機器設置しています。体組成・骨密度・ヘモグロビン推定値・乳酸・血糖・筋硬度・体温・血圧と魚の測定実施。

○目的

選手のパフォーマンス向上、ケガをしない身体づくり、競技種目に応じた栄養管理。





川西阪急との連携事業

連携先 川西阪急

担当 児童教育学科

2019年度より川西阪急と児童教育学科との連携事業を行っています。キッズイベントを阪急スタッフとともに企画・立案し、開催・運営する機会をとおして学生の経験値を高めることが目的です。イベントの企画から開催までのすべてを経験することで学びの集大成にもなっています。また商業施設でのさまざまな交流は社会人としての振る舞いを学ぶ大変よい機会になりました。今後も継続したイベントの実施を目指しています。

2019年度は、11月9日（土）の10時半～15時半の間、川西阪急の屋上で「園女（えんじょ）とEnjoy—あつまれわんぱくっ子—」というキッズイベントを開催しました。児童教育学科3・4年生25名が参加し、5月から阪急スタッフと何度も打ち合わせと練習を重ねました。

プログラムは、3歳未満を中心とした午前、3歳以上を対象とした午後の2部構成で行いました。内容は、ダンスやリトミック、障害物競走、綱引き、リレー、ミニゲーム、製作でした。参加者数が予想できない中で安全面に配慮した準備を行う難しさや、その日にはじめて出会った子どもたちと一緒に活動する難しさを克服するため何度も練習を重ねましたが、心配はつきませんでした。

当日は天候に恵まれ、気持ちよく澄みわたった空の下、約250名もの子どもたちとその保護者の参加があり、大盛況に終わりました。“はじめまして”とは思えない一体感がそこにはありました。学生と子どもたち、子ども同士、保護者や阪急スタッフの笑顔が溢れたステキなイベントになり、阪急スタッフからもねぎらいと感謝の言葉をたくさんいただきました。

学生一人ひとりの自信につながる充実したイベントになったと思います。次回が楽しみです。





小学校外国語（英語）実習

連携先 尼崎市こども青少年局児童課、尼崎市立小学校こどもクラブ
担当 人間教育学部児童教育学科 衣笠知子研究室

児童教育学科では、平成 22 年度より「小学校英語セミナー」など小学校英語に関する地域連携活動を行っています。さらに平成 24 年度からは、小学校英語関連科目を履修する学生や衣笠ゼミの学生が近隣の小学校こどもクラブに出向き、外国語（英語）実習を行っています。

2018 年度は尼崎市立塚口小学校こどもクラブで次の 45 分授業を 2 回行いました。

【1 月 25 日】“What do you like?” の会話を中心に、「おすすめランチメニュー」作り、英語の歌、絵本“Five Little Monkeys Jumping on the Bed”など。

【2 月 7 日】“What’s this?” の会話を中心に、「私はなんでしょう？」クイズ、英語の歌遊び、絵本“The Three Little Pigs”など。子どもたちは、歌ったり、会話や絵本のセリフを言ったり、英語を楽しんでくれました。





ママカフェ

連携先 尼崎市園田地域振興センター

担当 児童教育学科 社会連携推進センター

平成 26 年にスタートした園田地域振興センターのママカフェは人間看護学科、児童教育学科のコラボにより、地域の保護者、お母さん方が子どもさんの健診日に来られた時、子育て相談、子どもの健康相談を行っていました。その後健診は各地域振興センターから指定所に集約されるに至って来所の方々が減っていきましたが、園田地域振興センターでは、地域の方々の要望に応えるため小さいながらもママカフェを続けています。児童教育学科では、園田地域振興センターの要請を受けて学生の体験を兼ねてお手伝いをさせていただいています。子育て相談を受けたり、他の人々との交流を通して園田地域の子育ての一役を担っています。





契沖顕彰短歌大会

～「第17回 契沖顕彰短歌大会」の開催～

連携先 兵庫県・兵庫県教育委員会・尼崎市・尼崎市教育委員会・(公財) 尼崎市文化振興財団・尼崎信用金庫・尼崎文化協会・兵庫県歌人クラブ・新聞各社 等
担当 児童教育学科・契沖の会

国学の祖と言われる僧「契沖」は、江戸時代初め（1640年）に尼崎市で生まれました。「契沖」は『万葉集』『古今和歌集』などの古典和歌の注釈研究を行い、「契沖かなづかい」など多くの学績を残しています。「契沖顕彰短歌大会」は、そうした尼崎市ゆかりの「契沖」の功績を称え、尼崎市民が日本の伝統文化の短歌に親しむことを目的として始まったのです。

令和2年2月2日、「第17回 契沖顕彰短歌大会」の表彰式が、園田学園女子大学のAVホールで開催されました。尼崎市内の小学校、中学校、高等学校の児童・生徒からの作品の応募数がたいへん多く（今回は12,003首）、その応募数の多さから、全国的にも若年者の参加の多い大会だと評価を得ています。これも尼崎市で学校教育に携わる先生方のご協力があったことだと思います。

短歌大会では、児童の部、生徒の部、一般の部の3部門に分かれ、「契沖大賞」「兵庫県知事賞」「尼崎市教育委員長賞」「園田学園理事長賞」等を含めて全部で22の特別賞が、三つの部門のそれぞれの入賞者に授与されました。

子どもたちからの生き生きとした素直な短歌作品に触れるとき、幼いうちからの言葉の教育の重要性に気がつきます。

次の2020年の第18回短歌大会からは、大学生の部も加える予定です。





Super Sweets in Amagasaki

連携先 尼崎商工会議所

担当 生活文化学科・社会連携推進センター

スーパースイーツ アマガサキは尼崎商工会議所が実行委員会を主宰し、「スイーツの街・あまがさきをPRすることで、イメージの刷新、地元への愛着を高め、地域活性化に貢献する」を事業趣旨に挙げています。2012年度より教職員と学生がボランティアとして参加し、ホテルでのスイーツイベントや本学製菓実習室を使用したケーキ教室など、年度によって規模は違いますが毎年学生20人程度と教職員数名が参加し、お手伝いをしています。特に近年では本体の規模縮小に伴い子どものためのスイーツ教室として本学独自のスーパースイーツ アマガサキを展開しています。





そのだ子育てステーション

担当 短期大学部 幼児教育学科



2017年3号館1階にそのだ子育てステーション「ぴよぴよ」ができました。文部科学省の補助金を得て購入したドイツ製の木の室内大型遊具（滑り台・おうち）、壁面遊具、その他木製玩具等、子育て支援施設としては、ほかでは見られない大変充実した内容の遊具がそろっています。毎週火曜日と金曜日の10:40～12:10を「ぴよぴよ広場」として開放すると、地域の親子（0～3歳）の皆さんに遊べる場として喜んでいただいています。「ぴよぴよ広場」には学生がボランティアとして参加しています。当初は、初めて出会う子どもたち、保護者の方に緊張している学生がほとんどでしたが、回を重ねるにつれて自然体で臨めるようになっています。そして、授業で学んだ乳児の育ちや子どもの気持ちに寄り添うことなど、体験を通して学んでいます。学生にとっては、子どもたちの前で手遊びをしたり、絵本を読んだりする貴重な場となっています。



近松研究所 ～所蔵資料の展示、情報発信ほか～

連携先 尼崎市 近松記念館 各種団体等
担当 近松研究所

○説明文

近松研究所は、尼崎ゆかりの人物である近松およびその周辺の演劇・芸能に関する研究成果を広く社会に提供することを目的に設置された附置研究所です。主な活動は下記の通りです。

- ・「近松研究所紀要」第29号の発行
- ・近松講座*『『上方の文化－近松門左衛門をめぐる－』を読む』の主催
- ・特別展示*「役者評判記展」の主催
- ・ホームページ、チラシ、ポスター、デジタルサイネージ（学内）等での情報発信
- ・「かんさい・大学ミュージアムネットワーク」スタンプラリーへの参加
- ・尼崎城内における尼崎紹介動画の監修

(*印は(公財)尼崎市文化振興財団による「近松ナウ」事業)

上記の他に、閲覧室の開放、関係団体主催の講演、講座への講師派遣や各種委員会委員としての協力などがあります。





図書館の地域開放

担 当 図書館

図書館は、平成 12 年に尼崎市立図書館と連携協定を結び、以後、市立図書館を通して当館所蔵資料の貸出サービスを行ってきました。その後、地域の方々にも多く利用していただけるよう規程の変更を行いながら、今日の地域開放に至ってまいりました。現在では、①尼崎市内・伊丹市内・西宮市内に在住または在勤の 18 歳以上の方（ただし、他大学等に所属していない方）、②尼崎市内・伊丹市内・西宮市内に在住または在学の高校生女子生徒まで利用対象を拡大しています。館内には、公立図書館にはないような専門書も多く、当館で利用登録をされた方は、より高度な資料を閲覧・貸出することができます。このこともあり、毎年 100 名以上の地域住民に利用されています。



地域利用の更なる利用促進
に向けて館員による企画展
示イベント

本学図書館は、公開講座やシニア専修コースを受講されている方々にも利用していただいています。地域開放で利用される方と同様に、一部制限はありますが、資料の閲覧・貸出・文献複写・希望図書の購入といったサービスを受けることができるなど、地域に開かれた図書館を推し進めています。

また 2 階にある AV ブースコーナーでは、貸出はできませんが、視聴覚資料の閲覧ができます。映画は古いものから最新の作品や話題となった作品を選定しており、学生だけでなく、地域の方からも人気があります。令和 2 年度には、ヘッドホンを新しいものに改修することを予定しており、今後の更なる利用促進につながると期待しています。

防災面では、平成 30 年 6 月 18 日に発生した大阪北部地震により、図書館内に配架されている大部分の図書が床に散乱し、長期にわたり休館することになりました。その後、図書館 4 階と 5 階の一部に落下防止装置を設置いたしました。揺れを感知すると自動的にバーが作動し、図書の落下を防ぎます。こちらについても、順次全エリアに設置を検討しております。今後も利用者が安全・安心・快適に利用できる図書館をめざしています。



4 階 5 階 落下防止装置



阪神南ふれあいスポーツフェスタ

連携先 尼崎スポーツの森
<http://www.a-spo.com>
担当 スポーツ振興センター

尼崎スポーツの森（あまがさき健康の森株式会社）が主催する入場・体験無料のスポーツフェスタで、本学の学生もボランティアで参加しています。

2019年10月に行われた「阪神南ふれあいスポーツフェスタ 2019」では陸上部の学生が参加し、経験値を高めることができました。

尼崎スポーツの森CUP水泳記録会
10月15日(水) 15:00-18:00
25mプール

阪神南ふれあいスポーツフェスタ2019
10月13日(日) 10:00-17:00

尼崎スポーツの森
TEL.06-6412-1655

13日!ピンコ!優勝

阪神南ふれあいスポーツフェスタ2019

スローゴ
6.09.9.8

アウター
6.09.9.8



生涯学習 ～生涯学習開設 40 周年事業～

連携先 尼崎市・尼崎市教育委員会

担当 社会連携推進センター 生涯学習ユニット

本学の生涯学習は、「地域の皆様の“体と心の健康”をモットーに自己啓発していただくため」、1979年5月26日、第一回土曜公開講座とテニスコートやグラウンド等を開放する早朝キャンパス開放の実施が始まりになります。

当時の学長、一谷定之丞先生は、緑に包まれた大学、市民と大学が一体化するように、グラウンドに沿って張り巡らされていた塀を取り除き緑の生け垣とする等、大学キャンパスの整備にもご尽力されました。

1982年、地域社会人と学生が共に学ぶ特別総合講座として始まった「人間を考える」は、今もなお地域に根強い人気の看板講座です。毎回講師が入れ替わるオムニバス形式をとり、2018年度は「夢の諸相」、2019年度は「人生を楽しむ」をサブテーマで開催、さらに、2019年度は「40周年事業」の特別企画として、学外講師の回は単独申込みも可能とし、新規受講の方々にも本学生涯学習の魅力を知って頂く機会になりました。

その他、40周年を記念し、講演会とセミナーを実施。講演会には坪内稔典氏（俳人、京都教育大学名誉教授他）を講師にお招きし、先生の温かいユーモア溢れるお話に会場の皆さんは終始笑顔、また、本学スポーツセンターを会場に、中町美希レベッカ氏（空手家、世界チャンピオン）の実技を交えたセミナーを老若男女に1時間半、たっぷり楽しんで頂きました。

「自己啓発の道標に」から40年。年間1,400名を超える地域の皆様が集い、世代を超え愛される「学びの場」、まさしく、故一谷定之丞先生が構想された「尼崎の緑と人の集う拠点」です。

今後も地域とともに歩みつつ発展する大学として、人と人の「つながり」を大切にしたい社会貢献を進めてまいります。



まちの相談室

連携先 ご相談をしてくださった地域の人々
担 当 社会連携推進センター、学生課

学生地域連携推進委員会（通称：つな Girl）と社会連携推進センター職員とで運営しています。自治体や地域の各団体からイベントやボランティア募集などの情報を頂戴し担当教員やクラブなどへ情報提供を行っています。学生が直接地域の方々からお話をお伺いすることができる貴重な機会となっています。過去の相談件数は、平成30年度 105 件、文書での依頼件数は、258 件、平成31年度（令和元年）92 件で文書での依頼件数は 160 件でした。徐々に相談件数は減ってきていますが、過去にご相談を受けたボランティア、イベントなどは地域の人々とのつながりは継続していてそれらの活動は増えており、学生の地域活動の場は広がって行っています。





オセアニア地域交流プログラム

- 連携先** 香美町国際交流協会、新温泉町国際交流協会、豊岡市国際交流協会、
尼崎市教育委員会、NPO 国際おいしいの会、尼崎糸びす神社、カン
タベリー大学、クイーンズランド工科大学、南太平洋大学
- 担当** 国際交流センター



学術提携校のカンタベリー大学（ニュージーランド）、クイーンズランド工科大学（豪州）、南太平洋大学（フィジー）から留学生を招聘し「オセアニア地域交流プログラム」を開催しています。

期間中は、本学を中心に日本語学習を中心とした日本文化学習を行っており、プログラムの目玉は1982年から続く「雪国ホームステイ」です。これは、但馬3地域（豊岡市、香美町、新温泉町）の各国際交流協会との連携のもと地域住民や小学校と交流し、地域社会を活性化させる事業となっています。但馬地域の人々も毎年心待ちにして受け入れをさせていただきます。

また、本学学生やカンタベリー大学教育学部から招聘した特任准教授とともに尼崎市立小学校児童対象に英語を教えたり、尼崎市立高校のマレーシア短期留学派遣生徒と英語による交流会を開催したり、好評を得ています。

尼崎糸びす神社での巫女体験、茶道・着付け体験、そば打ち体験などの文化体験プログラムもあり、留学生たちは大はしゃぎです。

オセアニアからの留学生が日本により親しみ、日本へのリピーターとなってくれることを望んで草の根交流を続けています。



カンタベリー大学教育比較研修

連携先 尼崎市教育委員会、カンタベリー大学
担当 国際交流センター

尼崎市教育委員会と2014年から連携し、ニュージーランド・国立カンタベリー大学生が尼崎市立小学校3校を訪問する教育比較研究プログラムを開催しています。研修では児童との国際交流活動や教職員・PTAとの意見交換を行い、両国の教育の違いを学びます。来日する学生たちは卒業後、現地小学校教員として教鞭をとりまします。ニュージーランドには様々な国からの園児、児童がいるため、本学で研修した内容は現場で大いに役立っているといえます。

来日期間中には3泊4日のホームステイをしていて、大半が本学の学生宅等で実施することで双方にとって大切な異文化体験となっています。





日本語スピーチコンテスト

連携先 尼崎市国際交流協会、関西国際大学、
産業技術短期大学

担当 国際交流センター



海外学術提携校の韓国・インチョン大学、台湾・開南大学、インドネシア・ブンハッタ大学から長期の留学生が来て、主に日本語・日本文化を学習しています。来日当初は日本語を自信なさそうに話しますが、日を追う毎に上達し、日本語で冗談も言えるようになります。

毎年2月に尼崎市国際交流協会主催で日本語のスピーチコンテストが開催され、本番ではかなり緊張していますが、発表をし終わった時の顔は充実感に満ちています。お蔭様で令和元年度のコンテストでは、本学が上位を独占しました。





キッズフェスティバル

連携先 コンソーシアムひょうご神戸
担 当 社会連携推進センター

コンソーシアムひょうご神戸は兵庫県下の大学が所属する大学間連携です。各委員会には、国際交流委員会、学生交流委員会、教育連携委員会、キャリア委員会、高大連携委員会、FD/SD 委員会の 6 項目の委員会が設置されています。社会連携推進センターでは、学生交流委員会に属しており、ボランティア事業とキッズフェスティバル事業に携わっています。特にキッズフェスティバル事業は学生地域連携推進委員会（通称：つな Girl）の活動の一部として事前の学生会議にも積極的に出席しています。





十文字学園女子大学と 大学間連携に関する協定を締結

連携先 十文字学園女子大学（埼玉県新座市）

担当 企画運営部

園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部と十文字学園女子大学は、相互の教育研究及び社会貢献活動を通じ、教育研究の一層の発展、教育内容の充実、人材の育成及び地域社会への貢献等に関する大学間の交流を推進するため、連携に関する協定を2018年8月1日に締結しました。

経緯

本学と十文字学園女子大学は、地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）に採択された約80大学の内、数少ない女子大学として採択され、2016年度以降連携を行ってきました。また、学科も同様の構成となっていることから、今後も両大学の教育資源を有効に活用し、教育・研究・社会貢献の取り組みを深めるために連携に関する協定を締結するに至りました。

今後の連携協力の推進

本協定に基づき、両大学の教育資源を有効に活用し、教育・研究・社会貢献の取り組みを深め、教育研究の質の向上のために以下の分野で推進していきます。

- (1) 教育研究の連携に関すること
- (2) 学生間の研修・交流に関すること
- (3) 教職員の研修（FD・SD等）の交流に関すること
- (4) 単位互換及び遠隔講義等に関すること
- (5) 大学間の交流、学術交流及び共同の教育研究活動の推進に関すること
- (6) 地域社会への貢献の推進に関すること
- (7) その他大学間の交流等の連携に関すること





ひょうご神戸プラットフォーム 地(知)の拠点大学による地域創生推進事業(大学COC+事業)

- 連携先 兵庫県、神戸市、神戸商工会議所、兵庫県経営者協会、兵庫工業会、
神戸新聞社、神戸大学、兵庫県立大学、神戸市看護大学、吉備国際大学
- 担当 社会連携推進センター（旧地域連携推進機構）

神戸大学および県内COC大学等がプラットフォームを構築し、これまで培ってきた地域社会形成のための研究結果の成果を持ち寄り、これらを広く波及させるため「歴史と文化」「自然と環境」「子育て高齢化対策」「安心安全な地域社会」「イノベーション」の領域ごとに共同してテキストを作成し、教育プログラムを開発する。自治体、企業等の事業協働機関は、教育プログラム実施に協力している。特に事業協働機関と連携し、様々なインターンシッププログラムを通して学生が地元の企業で働くことを体験し、新しく開発する地域志向科目の学びを通して、学生は地域社会への理解を深め、地元で暮らすこと、働くことの魅力を発見するよう促しています。

本学は「知識」を「知恵」に変える「経験値教育」を特色とし地域を志向する教育を充実させる「経験値教育プログラム」の構築を大学COC事業で行いました。この「経験値教育プログラム」の地域志向科目として「大学の社会貢献」「つながりプロジェクト」を開設しました。また経験値評価システムを開発しどれだけの人とつながりを持つことができたか、その中で自己成長がどれだけできたか（経験値の向上）を定量的に示し、地域の方や教員からのコメントをデータベース化し、「アセスメント（自己評価）」と第三者の評価を合わせて総合的な評価を行えるよう構築していったことから、ひょうご神戸プラットフォームにおいて、本学は「歴史と文化」「子育て高齢化対策」の2領域について参画しています。





尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業

連携先 尼崎市福祉部福祉課
担 当 社会連携推進センター



尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業は2018年度スタートをした。当初の目的は、地域活動の担い手がないことから、市内をフィールドとし、市民活動団体との協働を対象として、高校生や大学生（短大、専門学校含む）が社会に出る前に地域に出て経験を積み地域社会へ若者の影響を波及するための支援を行うもので学生一人につき交通費等の補助金を支給する事業です。本学では地域の課題解決を目的とした補助事業。現在活動中の地域で活用することはもちろん、学生のしたいことなどを提示すれば地域の紹介も行ってもらうので、社会福祉協議会をはじめとする協力団体との連携もある

るので各地区ごとの活動も可能です。市内全体でのバランスは福祉課で調整して紹介していくので、学内に広く応募を呼びかけました。教員指導の下、事前学習から振り返りまでを含めた活動を要件とし、最終的には市民向けに成果報告を行うことが条件としている。その中で総合健康学科 江寄ゼミの3年が「NPO 法人スマイルひろば」を活動場として『地域と大学の宝が、活動を通して、共に学び育つ～』と題して副題が「～「スマイル・カフェ」「スーちゃん食堂」の活動における学生の経験値とは？～」と、児童教育学科 藤重ゼミの学生が『尼崎市の子育て支援について』と題し活動を行いました。翌年の2019年度は江寄ゼミは引き続き同テーマで、児童教育学科 田窪ゼミの学生は『尼崎市の子育て支援について学ぶ ー未就園児親子とのかかわりを通してー』と題してNPO 法人やんちゃんこを連携先として活動を行いました。



みんなのサマーセミナー

連携先 みんなのサマーセミナー実行委員会、
尼崎市、みんなの尼崎大学

担当 社会連携推進センター

みんなのサマーセミナーは、誰でもセンセイ、誰でも生徒になれる学校として繰り広げられる講座です。その講座数は300以上もあり、あらゆる年齢層のセンセイ、生徒が本物の学校を借りて新しい学びのカタチを形成しています。中には中学生のセンセイにおじいさんの生徒がいる講座、大学の先生が子どもたちを生徒に妖怪の講座、神主さんとお坊さんなどで宗教についての講座、特技の講座から普段聞いたことのない講座などなど、結果小学生がみんなのサマーセミナーの講座からヒントを得て夏休みの宿題を仕上げてしまったりと、その波及効果は計り知れません。本学の学生たちも自分たちの専門科目を紹介しています。高校教諭、プログラマー、主婦、主夫、ライター、NPO代表、都市計画コンサルタント、住職、フリーター、公務員、大学職員などなどあらゆるジャンルの人で構成されている実行委員会が中心となって1年間の準備を経て8月の第1週の土日に開催しています。

2019 8.3 SAT - 4 SUN
琴ノ浦高等学校 & 尼崎城中央図書館

サマセミ!

入場無料! 300講座!

学びのフェスだ!
キャッスル!
キャッスル!

宿題をシヤンと伸ばして立つ真っ白な尼崎城のとなり、
琴ノ浦高等学校があります。今年のサマセミはここが舞台。
それはお城のそばの寺子屋のようなです。300以上の授業が吹き乱れ、
センセイと生徒が霞ざり合う、学びの夏祭り今年もやってくる。

みんなの夏休み大学 サマーセミナー



子どもの育ち支援会議

- 【連携先】 尼崎市教育委員会、NPO 法人やんちゃんこ
【担当】 子どもの育ち支援会議、社会連携推進センター

不登校の子どもが増加しているなか、学校以外の学びの場の重要性も認識されるようになってきています。子どもの育ちは、学校、家庭、社会が連携することで、豊かなものとなります。本学では、総合健康学科、人間看護学科、児童教育学科の先生方が「子どもの育ち支援会議」を立ち上げ、不登校の勉強会等を実施しています。また、尼崎市においても子どもの育ちを切れ目なく継続的に支える総合施設として尼崎市子どもの育ち支援センター「いくしあ」を設置し、不登校支援については尼崎市教育委員会こども教育支援課が取り組みを進めています。こども教育支援課では、不登校支援の一つとして、外出しにくい子どもの家庭に大学生等のボランティアを派遣するハートフルフレンド事業を展開しています。これに呼応して今後は学内で従来から提唱しているボランティア活動とハートフルフレンドの人材育成とをつなげる取り組みを検討しています。

ハートフルフレンドボランティア募集



内容

不登校やひきこもり傾向の児童生徒及び教育支援室やサテライト教室を利用している児童生徒に対して、ボランティアとして活躍して下さい。主に児童生徒とのふれあいや学習活動等の援助を通じて自主性や社会性の育成を援助してください。

応募資格

- (1) 年齢 18歳以上(高校生不可)
- (2) 資格 資格不問
- (3) 募集人数 40名

応募方法

- (1) 履歴書を提出
履歴書は市販の物を使用してください。
(写真を添付すること)

応募後

- (1) 面談を行います。面談日時は後日相談の上決定します。
- (2) 面談の結果によって、ハートフルフレンドとして名簿に登録します。

活動費

報償費は、1回2,000円を活動報告書に基づき支給します。
(ただし、実費【交通費等】ふくむ)

活動場所

教育支援室
「はっとすてっぷEAST」
(尼崎市若工寺2-18-3)

提出先及び問い合わせ先
〒660-8501 尼崎市東七松町1丁目23番1号
尼崎市教育委員会 こども教育支援課
☎(06) 6489-6903
※ 郵送または持参による。





「尼いも」と園田学園女子大学

連携先 尼崎商工会議所、尼いもクラブ

担当 法人本部、社会連携推進センター

尼崎の特産品「尼いも」は、水害で栽培が途絶え、絶滅してしまいました。2003年に市民団体「尼いもクラブ」によって復活してから、農家や市民ボランティアの手により焼酎や茎のつくだ煮など市内に浸透していきました。本学でも尼いもに注目し、尼いも奉納祭の巫女姿での司会やブース出展を行ったり、尼いもを使った研究が行われたり、つな Girl（学生地域連携推進委員会）が尼いも応援団としてゆるキャラ「尼のいも子」を地域の方と作るなど、様々な連携を展開しています。授業では、地域志向科目「つながりプロジェクト」で「尼いもクラブ」の綱本武雄氏を非常勤講師としてお迎えして「尼いも」を通じ、地域を知り、地域の人とかかわる機会を増やしています。研究では「尼いも」を使って麴を作ることに挑戦したり、防災食として利用できないかレシピを考案したりと人間健康学部食物栄養学科が中心となって模索しています。つな Girl は、初代の委員長が尼崎市農政課を通じて尼いもの取材を行ったことをきっかけに「尼いも応援団」と称して、つな Girl 結成の年から尼いも奉納祭でのお手伝いやブース出展を続けています。尼いも奉納祭の来場者にイラストや名前を募集して、2年がかりでゆるキャラ「尼のいも子」が完成しました。





尼崎市の企業にお越しいただき、 学内企業説明会を実施

連携先 尼崎商工会議所

担当 学生支援部 キャリア支援課

平成 29 年 2 月 21 日に本学と兵庫との間に就職協定が取り交わされました。さまざまな取り組みの中で、地域に根差した大学として地元企業と学生をつなげる一環で、学内企業説明会を行いました。短期大学生が主な対象で、兵庫県と大阪府合わせて 10 社の企業にお越しいただきました。39 名の学生が参加し、メモを取りながら真剣に採用担当者の方のお話を聞き、とても貴重な説明会となりました。

説明回数：計 5 回 1 回の説明時間：30 分×休憩 15 分

平成 30 年 6 月 25 日（月）に尼崎市商工会議所から尼崎市内の企業をご紹介いた



だき、地域と学生をつなげる学内企業説明会を実施しました。参加企業は自動車関係・建築関係・食品関係・自動車関係・医療関係・電機機器関係など多岐にわたり、学生は多様な企業研究を行うことができました。1 ブースの着席数は、質疑応答等がしやすくお互いの顔が見える近い距離になるように 4 席の少人数制で行いました。本学 OG が一緒に参加していただけただけの企業もあり、初めは少し緊張していた学生も徐々に緊張がほぐれ、真剣に採用担当の方や OG の話に耳を傾けていました。また、OG はとても親身になって会社の魅力を説明していただき、学生が質問しやすい雰囲気を作ってくれました。学生は学内開催で気軽に参加できたこともありとても満足し、「受けたい企業が見つかった」とアンケートで回答した学生もいました。企業アンケートでも「来年度も参加したい」というご意見をいただくなど、学生と企業ともに満足いただけただけの説明会になりました。今後も継続して実施し、地域に根差した大学として学生の地元就職支援を行っていきます。





大学生による地域連携推進支援 ～阪神つながり交流祭～

連携先 兵庫県阪神南県民センター

担当 社会連携推進センター

兵庫県阪神南県民センターが主催する「大学生による地域連携推進支援事業」に応募し、0歳～100歳がともに生きる〈のびのびタウン〉「尼崎プロジェクト」、「SONODA 尼崎城応援隊」の2プロジェクトが採択されることで補助事業として認められ活動を開始しました。この活動は（1）阪神南地域を対象地域に、大学生が地域団体や事業者と連携して地域活性化等に資する活動の支援を行うことで、新しい発想による地域活性化手法を開発する。（2）県内大学生が阪神南地域の商店街等と連携して商店街の活性化等に資する活動を支援することで、新しい発想による商店街活性化手法を開発する。の2点を目的としています。本学の2プロジェクトは「尼崎プロジェクト」として定着していますが、対象、地域などを変えたり、広げたりしながら地域貢献を行っています。

年間の活動については年末に行われる阪神つながり交流祭において学生たちが活動報告を行っています。





但馬地域連携事業 ～ソフトボールクリニック～

- 連携先 但馬ドーム（兵庫県豊岡市）
<http://www.tajimadome.jp/>
- 担当 スポーツ振興センター

これは但馬周辺地域住民の健康増進とソフトボールの技術向上を目指して、但馬ドームと共催し実施しているスポーツクリニックです。

このクリニックには2日間にわたり多数の小中高生が参加、本学ソフトボール部木田監督・島崎コーチの指導のもと、部員36名が直接指導しています。





三重県熊野市との連携

連携先 三重県熊野市教育委員会

担当 社会連携推進センター、食物栄養学科



熊野市が力を入れるソフトボール合宿に本学ソフトボール部が参加していたこと、スポーツ栄養学の分野で本学からの教員派遣が積極的に行われていたことから、平成 28 年に本学と同市における「連携（コラボ）」の講座開講を続けています。同市が「地域学として“熊野学”を学び、将来にわたって熊野の文化を守り育てる人材育成」を目的に開校する“熊野市民大学”への本学教員の派遣については、熊野市地域の文化おこしの要として大きな期待が寄せられています。先ず熊野市から専門員を招き、熊野学として阪神地域に住む受講生対象に講座を行い、この受講生が次に課外研修として熊野市を訪れ熊野市民と講義を受講することで交流を持ちます。特に平成 29 年度の演題が「小説『悪医』が投げかけた問い～〈患者〉と〈医師〉の対立と医療制度～」では、患者と医師の関係から現代の医療制度と私たちの状況を考察するなど、同市の人材育成事業に寄与する内容でした。今後は同市が過疎化や少子高齢化の課題から取り組む「人材育成」「地域経済」「地域資源」など「三重県熊野市とのコラボ講座」が同市の発展・解決へと導く企画として本学は連携を深めていく計画です。



尼崎市立杭瀬小学校との連携事業

連携先 杭瀬小学校学区学習センター運営委員会

担当 人間教育学部大江研究室、人間健康学部喜始研究室、
社会連携推進センター



杭瀬小学校学区学習センター運営委員会は、2007年に学校統合後の新校舎の設計に公共スペースがあることから、そこを拠点に地域の学習センターとしての機能を検討する委員会です。2010年度から本学も参加し、学校、PTA、保育所、行政、地元企業、社会福祉協議会等が月1回会議を開いています。尼崎市の「地域学校協働本部事業」として地域全体で未来を担う子供たちの成長を支えていく「地域学校協働活動」を推進することを目指しています。

本学と杭瀬小学校区との連携は2010年度に商店街のサマーフェスティバルへの参加から始まりました。尼崎商工会議所との連携で情報誌「杭瀬なび。」の政策を行ったことからその後杭瀬熊野神社祭礼、街歩き、杭瀬交流フェスティバルなどに参加してきました。児童教育学科の大江研究室の学生が調査、研究、考案した「くいせスタンプラリー」は3年生の郷土学習の教材として、杭瀬小学校に

寄贈しました。その後も「キャリア教育」、「認知症サポーター養成講座」(株)栄水化学との連携授業「お掃除の達人になろう」「夏のプールみまもり」「図書の管理と読み聞かせ」など、学社連携・融合で地域の活性化を図ろうとしている杭瀬小学校区との取り組みに寄り添いながら、学生の活動ができる企画を進めていきます。



園田北まちづくり協議会との連携

- 連携先 園田北まちづくり協議会、社会福祉協議会
- 担当 人間看護学科坂元研究室、児童教育学科大江研究室、社会連携推進センター

園田北まちづくり協議会は、園田北小学校区のまちの課題解決を住民団体、企業、学校、商店、行政などがネットワークを組み地域包括ケアシステムの構築にあたるのが目的で2017年に設立されました。7つの事業の中で地域子育て・青年隊支援事業、歴史・自然等、地域資源活用事業、認知症地域支援プロジェクトの3つの事業に参加、助言、協力を行っています。

地域子育て・青年隊支援事業では、猪名寺忍者学校の入学式から卒業試験で開催される全6回のうち児童教育学科の学生が1回を担当し、企画し、地域に愛着をもつプログラムを実施しました。また歴史・自然地域資源活用事業では園田北地域史編纂のお手伝いと田能の里芋の利用方法を研究することで地元プライドを持って長く住める地域づくりを目指す事業を支援しました。さらに認知症地域支援では、「地域で自分らしく暮らすための高齢者支援」として在宅の認知症高齢者への支援と健康推進支援と予防支援を教員・学生が地域の人々に対して企画、実施をしています。

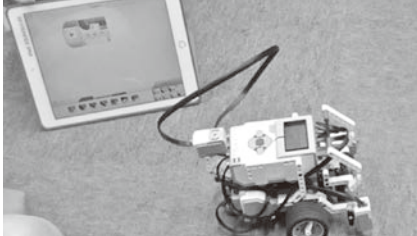




小学校でのプログラミング支援

連携先 県立西宮今津高校、畿央大学現代教育研究所

担当 人間健康学部 難波研究室、情報教育センター



2020年度から小学校において、プログラミング教育が実施される。総務省等では、その先行実施の結果を踏まえて、それを発展させたIoT・ロボット教育の普及を考えています。本研究は、本学学生が主体となってその教育のサポートを行うプロジェクトに関する研究です。研究の内容は、児童に対する教育内容の研究、学生の児童に対する教育力養成プログラムの確立が主となりますが、本プロジェクトのもう一つの目的として、持続可能な支援システムの構築としています。そのため、学生の児童への直接的指導だけでなく、教材整備や小学

校教員研修の援助、他団体との共同による教育活動サポートなど多彩な支援を進めていくことを考えています。この中で、学校現場にとって意義のある支援の在り方を模索し、学生が主体的にかかわる意義とその果たすべき役割を明らかにしていきたいと思ひます。小学校でのプログラミング教育は世界的な流れです。その理由は、現在、技術分野でのIT人材が不足した状態となっており、情報社会を支える人材を育成するため、小学生段階からITの基本的な考え（科学的思考を含む）を身に付けさせ、ITの興味関心を喚起しようとするためです。これは古く1990年ごろからACMが提起し、2007年Wing氏（コロンビア大）が『コンピュータ的思考』で普通教科での情報教育の意義を論じました。こうした経緯でアメリカ等では、教育理念に基づく教材開発を行ってきた。残念ながら日本ではそういった経緯がなく、他国の動静から急ぎょプログラミング教育が始まろうとしています。そのため、保護者等の期待感と裏腹に小学校では戸惑いがあるように思われます。プログラミング教育の意義を確認しそれに基づく情報教育モデルを構築が急がれます。（2018.2.16）



庄下川の親水性の向上

連携先 尼崎市環境部環境保全課

担当 人間健康学部総合健康学科 衣笠治子研究室



尼崎市を流れる都市河川である庄下川の親水性の向上にとりくんでいます。

尼崎市の実施する河川環境調査地点からさらに上流の、上生嶋橋付近の水質モニタリング（DO、BOD、COD、pH、濁度、一般細菌検査、大腸菌群検査）および、生物調査を定期的に行い、尼崎市の行う水質調査と連携してデータを共有しています。大学近辺の庄下川アメニティ

ゾーンでの植物調査、小動物やプランクトンの調査は、都市河川に形成された自然を知ることにもなり、その結果をもとに、地域住民に向けた親水プログラムとして構築、実施している。親水プログラムは、地域住民が、より河川に興味をもち、河川をアメニティの空間としてとらえられるように工夫しています。プログラムを作り上げる過程に学生がかかわることによって、地域貢献だけでなく、学生自身が地域の歴史やさまざまなニーズを知ることができます。過去には近隣の小学生のための親水プログラムとして、“庄下川たんけん”、“庄下川の生き物を観察しよう”、“プランクトン観察会”など、また保育所や幼稚園児対象に“庄下川たんていだん”などを提供しました。また、大人向けには、庄下川の河川環境を利用した健康増進活動のプログラムも行いました。

植物、動物の分布資料を活用しながらプログラムを作り上げることで、将来、教育に携わる学生たちが、調査結果をもとに地域の環境保持の課題にとりくむこと、調査結果を地域に還元することの経験を通じて学ぶ、教育効果も期待しています。





まちづくり解剖学

担当 社会連携推進センター

「学校に行く？学校に行かない？
みんなで考えよう～不登校～」
2019
11/23 (土・祝) 14:00～16:30
園田学園女子大学 3号館 1階 ラウンジ commons
子どもの教育、成長にかかわる皆が強い関心のつながりを
強化し、連携を深め、情報の共有を行います。

園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部

本学が主催し、地域社会、大学、行政それぞれの抱える課題を共有するための研究会として2013年から毎年6回から7回ほど開催しています。毎回学生や大学教職員、地域の方々などテーマによって10名から50名ほどの参加があり、地域の知の核としての大学の研究機能に期待する声があります。

平成30年に尼崎市制100周年を記念して尼崎城が再建されました、本学では早くから尼崎城の利用方法や観光資源の中核としてとらえ建物の中のどのような施設になるか、その展示方法などに興味を持ってみていました。「情たっぶりの城下町ジョーのある町尼崎」と題して尼崎市まち咲施策推進部の課長さんから具体的な見取り図や将来設計などのお話から学生がどのように利用、学習、課外活動へと結びつけることができるかを模索しました。また、「尼崎市の子育て支援」「地域の活動から学び育つ養護教諭力」のゼミ学生からそれぞれの視点での発表会を行いました。一方で石川県の白山市松任中学校から生徒さん36名を迎え、白山市の魅力発信を行ってもらい、若い人

まちづくり解剖学 番外編
競争心、亀ト(きぼく)の歴史を前も明かす！
亀ト(きぼく)
テレビ等で話題となった2019(令和1)年5月13日園田点定の場で
行われた古い亀ト。
亀の甲羅を焼き、そのひび割れの入り方で占う。東アジアでは
国家運命の重要な指針とされていたにもかかわらず、亀トの
技法は秘事・口伝であったため、全容は明らかになっていない。
下記の通り、亀トを紹介し、先着50名で本学の学生を
はじめ関係者、一般社会人の皆さんに亀トを分かりやすく、
再現実験を行った様子も紹介させていただきます。

日時: 5月30日(木)
13:30～14:30
場所: 222教室
(副室: 13・10)
講師: 大江真
人間教育学部教授

お問合せ:
社会連携推進センター
研究支援・地域連携ユニット
chikayama@sonoda-u.ac.jp

たちの視点を参考に魅力発信について行政、教員らがそれぞれの立場から検討を行い、中学生と大学生が交流を持ちました。令和元年は天皇の代替わりの年でもあったので、その催事に行われる亀の甲羅を焼き、そのひび割れの入り方で占う技法は秘事・口伝であったため全容が明らかになっていない亀トについてお話を伺うなど多様な方面からのまちづくり解剖学を行いました。



地域志向科目「つながりプロジェクト」

連携先 兵庫県下（阪神・但馬・淡路）ほか
担当 教務課、社会連携推進センター

平成 28 年度より新設した「つながりプロジェクト」は、地域課題に即したテーマについて、課題解決に向けての企画、提言を行う PBL (Project Based Learning) 型の演習科目で、大学 2 年次生が必修科目として、学部・学科を横断して学んでいます。

- ①近隣市及び但馬淡路をフィールドに地域課題のなかから「健康づくり」「学校教育」「生涯学習」「子ども・子育て支援」の 4 つのテーマについて、学部学科の学問領域を横断して総合的に学習する。
- ②各地域の行政や NPO、自治会等の地域団体と連携し、フィールドワークで現状を知ったうえで、解決すべき課題を設定する。
- ③設定した課題について、調査・研究し、その解決策を策定し、発表会で提言を行なう。

この地域志向科目「つながりプロジェクト」の到達目標は、多様な地域課題を学び、少人数で主体的に学びながら、課題探求能力を高め、「経験値」を高めることをめざしています。

「経験値」は、教室で理論的なことを学んだ上で、地域での実践を通して、理論的なことが証明されたり、理性的に考え、納得できたりすることによって養われます。

教室で学んだことが社会でどう活かされるかを実感することで理論と実践が結びつき、さらに次の学びへと発展していきます。「経験値」は「知識」と「知恵」、そして「知識を知恵に変える力」の 3 つで構成される値です。



つながりプロジェクト一覧（2019年度）

NO	テーマ	代表教員	連携先	対象地域
1	つながりプロジェクトNO.1 VR・AR・AIロボット、ドローンなど最新のテクノロジーを体験し、社会に役立つ提案をしよう！	堀田 博史	尼崎市・尼崎市教育委員会	尼崎市内小学校・中学校
2	つながりプロジェクトNO.2 地域における感染対策「手洗い講習会」	山本 恭子	尼崎市・尼崎市教育委員会	尼崎市内公民館
3	つながりプロジェクトNO.3 コンピュータサイエンスをより身近に	小田桐良一		
4	つながりプロジェクトNO.4 庄下川環境を利用した地域住民の親水性の向上	衣笠 治子	尼崎市・尼崎市教育委員会	尼崎市衛生研究所
5	つながりプロジェクトNO.5 地域の日本語教育への提言－ボランティア育成の実践と課題－	吉永 尚	尼崎市・尼崎市教育委員会	尼崎市内公民館
6	つながりプロジェクトNO.6 小学校でのプログラミング教育	難波 宏司	尼崎市・尼崎市教育委員会	尼崎市内小学校
7	つながりプロジェクトNO.7 地域での学びの形を考え、実践する	石井 稔	みんなのサマーセミナー実行委員会	尼崎サマーセミナー
8	つながりプロジェクトNO.8 神戸・南京町から、若者の地域づくりを考える	葛始 照雪		
9	つながりプロジェクトNO.9 女性が活躍できる環境を考える	山本紀世子	尼崎市・尼崎市教育委員会	尼崎市内
10	つながりプロジェクトNO.10 地域の学びプロジェクト演習	若狭 健作	みんなのサマーセミナー実行委員会	尼崎サマーセミナー
11	つながりプロジェクトNO.11 まちづくり企画実践演習	綱本 武雄	尼手クラブ・尼崎商工会議所	尼崎市内・貴布禰神社
12	つながりプロジェクトNO.12 尼崎女性センターを知り、男女共同参画を考える (テーマ データDV)	岩田さやか	尼崎市・尼崎市教育委員会	尼崎市立女性センター
13	つながりプロジェクトNO.13 おもしろさ こともなげ世を 面白く	大原 一豊	尼崎市・尼崎市教育委員会	尼崎環境オーブンカレッジ
14	つながりプロジェクトNO.14 尼崎の森中央緑地で生き物のつながりを楽しむ環境学習を作ろう	石丸 京子	県（COC+）に準ず	兵庫県立尼崎の森中央緑地
15	つながりプロジェクトNO.15 図書館探検隊 図書館革命	久島島 元	尼崎市教育委員会 2018 まで	
16	つながりプロジェクトNO.16 地域社会とまちづくり	馬場 正哲		
17	つながりプロジェクトNO.17 記者リテラシーを活用した表現の実践～地域の情報発信～	宮島 友香	尼崎市教育委員会 2018 まで	
18	つながりプロジェクトNO.18 地元企業との連携による商品アイデアの創出	上相 英之	尼崎商工会議所	中小企業センター・ 尼崎地域産業活性化機構
19	つながりプロジェクトNO.19 あまっこキャリア教育プログラムの開発・実施	荒川 由規	尼崎市教育委員会 2018 まで	
20	つながりプロジェクトNO.20 地域におけるお寺・神社の可能性～地域資源としての宗教施設	中平 了悟		
21	つながりプロジェクトNO.21 オブジェ作品を作ろう！	松野 一樹	尼崎市・尼崎市教育委員会 2018 まで	
22	つながりプロジェクトNO.22 尼崎城のまわりの魅力を見つけよう！	柏原 康人	尼崎市・尼崎市教育委員会 2018 まで	尼崎市内 中央地域
23	つながりプロジェクトNO.23 こどもの貧困支援	福井 邦晃		
24	つながりプロジェクトNO.24 不登校・高校中退の生きる道を探る	山口 真史	尼崎市教育委員会 2018 まで	
25	つながりプロジェクトNO.25 村の魅力発見！香美町小代の玉探し	大江 篤		



学生地域連携推進委員会（通称：つな Girl）

- 連携先 尼崎市、尼崎青年会議所、尼いもクラブ、
コンソーシアムひょうご神 その他
- 担 当 社会連携推進センター

地域の方と学内の学生をつなぐ架け橋を担い、まちの相談室を開室、地域の方からのボランティア等を学生に周知したり、イベントの企画、自らボランティアとしても活動をしたりしています。コンセプトは「つながって、巻き込んで、楽しんで、笑顔が生まれて、またつながって」と地域活動をする楽しさを伝えています。SNS等も活用して地域とのつながりも大切にしています。私たちの活動で特に力を入れているのが、尼いも奉納祭と大学コンソーシアムひょうご神戸主催の「キッズフェスティバル」です。尼いも奉納祭では年齢がお年寄りから小学生以下の子供たちまで幅広い世代の人々が楽しんで、声掛けをしてくださったりして充実した時間が過ごせます。もう一つのキッズフェスティバルは準備段階から他大学の学生と問題点や運営などについて話し合いをします。容易にOKが出るのではないですが、内容が決まれば子どもも子どもの保護者も一緒に楽しんでもらえるよう配慮しています。





リーダーシップを育む地域連携活動 (テニス部)

連携先 尼崎市テニス協会、園田学園テニス部 OG 会、
尼崎市スポーツ振興事業団

担 当 テニス部、スポーツ振興センター、社会連推進携センター

テニス部が行っている地域連携活動は、尼崎市スポーツ振興事業団が主催する「スポーツのまち尼崎フェスティバル」において「園田学園女子大学テニス部ジュニアテニススクール」としてジュニア教室（尼崎市記念公園コート・10月）園田学園テニスクリニック（本学コート・11月、3月）、学生部・スポーツ振興センター主催の園田学園女子大学スポーツクリニック（本学コート・2月）です。幅広い年齢の参加者に対するクリニックの企画、運営、指導、指導補助という役割を部員が担い、先輩方のご協力をいただいて開催しています。テニスの楽しさを伝えることと、学生たちのリーダーシップを育む場としてスポーツを支えるボランティア活動に積極的に取り組み、より能動的にスポーツに関わっています。

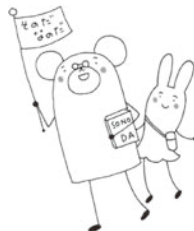




インターアクトクラブの活動 ～献血推進活動～

- 連携先 尼崎北ロータリークラブ、
塚口さんさんタウン献血ルーム
- 担当 学生支援部 学生課

本学インターアクトクラブは、尼崎北ロータリークラブの支援を受け、社会奉仕と国際理解を目的に活動を行っています。主な活動は、兵庫県赤十字血液センター「塚口さんさんタウン献血ルーム」のスタッフと共に行う献血推進活動です。大学内での献血PRを中心に、例年10月に実施する学園祭「けやき祭」に献血車を招き、毎年100名近い方々にご協力いただいております。また学生会執行委員会との連携で大学周辺のゴミを集めるイベント「あさのおそうじ会」を毎年実施しており、中でも2018年度は近隣NPO法人・企業組合とコラボし、ゴミを拾うトングを刀に見立てた「刀トング」を使用して、ゴミを集める地域活動に取り組みました。





そのだスポーツフェスティバル

連携先 尼崎市教育委員会

担 当 スポーツ振興センター、学生課

これは、6強化クラブ（テニス・ソフトボール・バスケットボール・バレーボール・剣道・陸上競技）の学生たちが、自分たちの手でカリキュラム構築から実施、運営までを行う地域の子供さん参加型の無料イベントです。

この「スポーツフェスティバル」のはじまりは、平成27年度（2015年度）から平成29年度（2017年度）の3年間行ってきていた正課外の経験値プログラム構築会議の中での発案でした。そこで、スポーツ強化クラブの学生たちの経験値をより向上させることを目的としたイベントを開催してみてもどうかという意見が取り上げられたという経緯があります。

● 2018年度「第2回スポーツフェスティバル」は2019年2月23日（土）午前の部 10:00-12:00、午後の部 14:00-16:00 で実施し、157名の参加者がありました。

● 2019年度「第3回スポーツフェスティバル」は2020年2月22日（土）午前の部 10:00-12:00、午後の部 13:00-15:00（バレーボールは16:00まで）で実施し、186名の参加者がありました。





学生会執行委員会 「産業技術短期大学との交流」

連携先 産業技術短期大学

担当 学生支援部 学生課

学生会執行委員会は他大学との交流や学内イベントの企画・運営を通して、多くの人と関わり新しい自分を発見すること、自分自身を成長させることをテーマに活動しています。その活動の一環として、同じ尼崎市内にある産業技術短期大学と定期的な交流を行っています。

毎年、4月に新役員の顔合わせを行い、5月・11月には産業技術短期大学の体育祭・飛翔祭へ参加、反対に10月には本学けやき祭へ参加頂き、相互の大学行事を盛り上げています。大学の代表として意見交換を行い、お互いがより自分を高める貴重な交流となっています。今後もこのつながりを大事に、地域の発展を目指して連携を深めていきます。





けやき祭

連携先 地元、近隣企業・事業所、
産業技術短期大学等

担当 学生支援部 学生課

けやき祭は毎年 2,000 名以上の来場者・出展（店）者でにぎわい、数多くの近隣企業・事業所から協賛をいただき運営をしています。兵庫県赤十字血液センターと本学インターアクトクラブの連携での「献血活動」に加え、他大学や地域の方々の野外ステージ出演、模擬店の出展（店）など、けやき祭は学外の団体と本学学生とを結びつける場としても機能しています。また市内にある産業技術短期大学とは毎年、相互に学園祭へ出店をするなど交流を深めています。

2020 年度は新型コロナの影響で中止となりましたが、今後も学生・地域の方々・企業といった来場者・出展（店）者が、交流を楽しむことのできる学園祭を目指していきます。



編集後記

『「そのだ」の地域連携』も本号をもって6号目を迎えました。本号では、2018年・2019年度の各学科やクラブ、部署などや、つながりプロジェクトでの様々な地域活動を紹介しました。これらの活動を通じ、地域の方と連携し、よりつながりを深めることができました。ご協力いただきました関係者のみなさまには厚く御礼申し上げます。

2019年度の終盤に差し掛かるころから新型コロナウイルス感染症が急激に広がっております。それを受けて2020年4月には緊急事態宣言が出され、不要不急の外出の自粛など、一時はまったく地域活動が行えない状況となりました。その後、感染拡大がやや落ち着き始めたこともあり、地域活動も感染防止策を講じながら、少しずつ再開できるようになってきております。

当面はこれまでの形式で活動が実施できない状況が続いておりますが、「地域とともに歩む大学」として、ウィズコロナ時代の地域活動を今後どのように実現できるかを模索していきたいと思っております。

2018年度～2019年度

「そのだ」の地域連携 VOL.6

2021年3月発行

園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部
社会連携推進センター

<http://www.sonoda-u.ac.jp/chiiki/>

〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7丁目29-1

Tel : 06-6429-9921

Fax : 06-6422-8523

E-mail : chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp



 文理科学者
地(知)の拠点